

# 日銀当座預金 最多563兆円

## コロナ対応、1年で40兆円増

## 高まる利払い負担リスク

日銀当座預金が膨張を続けている。2022年3月末の残高は563兆円と1年間で約40兆円増え、過去最多となった。新型コロナウイルスに対応する融資を手掛ける金融機関向けオペ（コロナオペ）で、銀行などが日銀に預ける預金が急増した。仮に日銀が利上げに動けば、預金に多額の利払いが必要になる。国家財政の重荷になり、政策の自由度を奪うリスクをほらむ。

## 利上げ局面で債務超過も

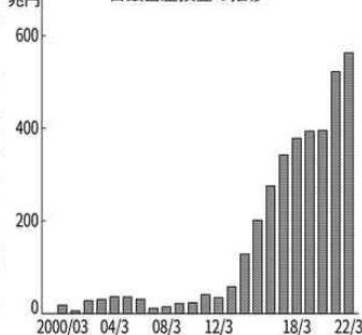
日銀は「銀行の銀行」として、民間の金融機関から預金を受け入れている。日銀当預とよばれ、銀行間のお金のやり取りなどに利用される。

日銀は金融不安などに備え、金融機関の預金の一部も準備預金として日銀当預に預けさせている。足元の当預の拡大は、当預から準備預金を除いた超過準備の伸びによるところが大きい。

超過準備が拡大を続けてきた背景には大規模緩和の存在がある。日銀が金利を抑えるために国債を買い入れることで、売り手にあたる金融機関の当預に資金が振り込まれるためだ。さらにコロナ対応オペの実施で、銀行が日銀に預ける預金が増えたことがある。

当預の推移をみると、黒田東彦総裁が大規模緩和を始めてからの9年超で約10倍に増えた。18年以降は横ばい圏で推移していたが、日銀がコロナ対応で貸し出しを増やし

20～21年度の2年間で170兆円増加  
日銀当座預金の推移



た金融機関の当預に、一時的に高い金利を付与したことで直近の2年で約170兆円増えた。今後の懸案はインフレが加速し、現在の金融緩和策の転換が迫られる時代。引き締めの局面では一般的に、市場金利を引き上げるために当座預金に利息をつける必要がある。米連邦準備理事会（FRB）は15年からの利上げ局面で、超過準備に適用する付利（IOER）を0・25%から2・4%まで引き上げている。日銀は560兆円を超過当座預金を抱えてお

り、利払いが運用利回りを上回る「逆さや」が1%分になれば単純計算で年5兆円超の損失が発生するようになる。既にインフレ退治に挑む米国では「利上げが3%台半ばから後半まで進めば、FRBは逆さやになる可能性が高い」（野村証券の清水直和シニア金利ストラテジスト）。損失が続いて自己資本（約10兆円）を上回れば日銀は事実上、債務超過に陥る。東短リサーチの加藤出社長の試算では、当預に0・5%の利息をつけると逆さやが発生し、2%まで引き上げると1年程度で日銀が債務超過となる可能性がある。過去にはスイス国立銀行（中央銀行）が債務超

過に陥ったことがあるが、主要国の中央銀行が債務超過になったことはない。政府が中央銀行の増資に応じる選択肢はあるが「日銀法では日銀が債務超過となった際に政府が損失補填をできないこととされている」（参院予算委員会調査室）。市場の反応が読み切れない面もある。日本総合研究所の河村小百合首席研究員は「政府債務が膨らむ中で日銀が債務超過になれば通貨の信認が毀損し、円安が一段と加速する」と予想する。あるヘッジファンドの幹部も「日銀が債務超過に陥ったというニュースが流れば、海外勢は機械的に円を売る」と語る。バランスシートの膨張が続けば続くほど、利上げ時の負担は重くなる。法政大学の小黒一正教授は「金利上昇時に誰がコストを負担すべきか、債務の問題が顕在化する前に関係者で議論を進める必要がある」と指摘する。（三島大地）